

図1 シーパックソーンエキスの毛乳頭細胞増殖促進作用

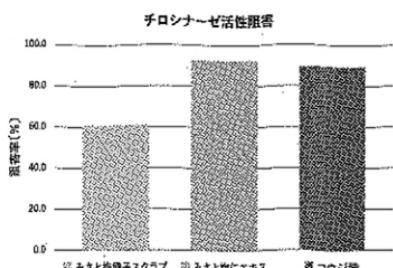


図2 みさと梅仁エキス・みさと梅種子スクラップのチロシナーゼ活性阻害作用

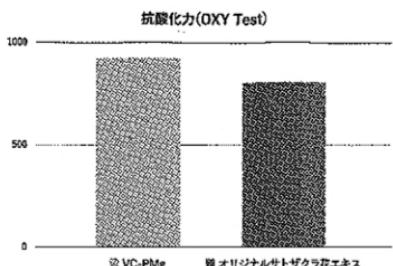


図3 サトザクラ花エキスの抗酸化作用

化粧品OEM大手のコスモビューティー(東京・大阪本社制、03-6631-6910、山添隆社長)は、大学との共同研究等によるオリジナル原料の開発提案を加速している。

「シーパックソーンエキス」(特許出願)は、同社と東京工科大学との共同研究により開発された、毛乳頭細胞の増殖促進(図1)や発毛促進因子発現亢進、男性の薄毛、女性の薄毛両方に對し予防または改善が

期待できるというエキス。ソーンは、抗酸化成分や細胞賦活成分など約300種類の豊富な栄養素を含む「シーパックソーンエキス」と

「みさと梅仁エキス」と「みさと梅種子スクラップ」は、同社と前橋工科大学との共同研究による、梅の種子から開発された同社サス

テナブル原料の第一弾。食取った後の梅の種二つ一つを割って取り出した仁(種子の核)は、古くからある八重桜の「サトザクラ花エキス」は、古くからある八重桜の子スクラップから抽出されたといふ(図2)。

「サトザクラ花エキス」は、古くからある八重桜の花エキスに期待される効果として抗酸化作用とチロシナーゼ活性阻害作用については、抗酸化作用についてはVC-PMgの医薬部外品有効量と比較してサトザクラ花エキスは1%配合量で

コスモビューティー

サステナブル原

料 第1弾も

独白原料を連打 大学との共同研究で

まで廃棄されていた資源を有効活用した。両原料に期待される効果の一つで、メラニン色素の生成に関わる酵素チロシナーゼの活性阻害作用については美白有效成分のコウジ酸と比較して、みさと梅仁エキスが約106%の有効性、みさと梅種子スクラップから抽出したエキスは約68%の有効性が示されたといふ。

90%の抗酸化力(図3)、またチロシナーゼ活性阻害作用については美白有效成分コウジ酸と比較してサトザクラ花エキスは1%配合量で約70%の有効性を示すたといふ。